



原風景 寺田栄次郎 2012年



原風景 寺田栄次郎 2012年

## ■ 寺田栄次郎展

ー 10cm四方の小宇宙ー

第3展示室

## ■ 春の優品選

前田育徳会尊經閣文庫分館

## ■ 刀剣と槍

第2展示室

## ■ 近現代九谷焼の流れ

第5展示室

- 3月のコレクション展示室 主な展示作品
- 3月の企画展示室
- ミュージアムレポート
- 企画展Topics
- アンケート結果より
- 平成23年度の展覧会を振り返って
- 展覧会回顧 移動美術展
- 所蔵品紹介
- 友の会入会受付開始

## 春の優品選

2月10日(金)～3月24日(土)会期中無休

前号に引き続き、「育徳会所蔵のコレクションがどのように形成されたか」に触れながら、「春の優品選」の紹介を行います。

さて、二月二十五日は、誰の命日でしょうか。歴代藩主ではありません。しかし、前田家に関わり深い人物です。月命日である二十五日、この人物を祭る神社では、祭礼が行われます。…それは、菅原道真です。

前田家では、三代藩主利常の頃より、自分たちの先祖は菅原道真であると明言するようになりま

す。そして、「東風吹かば」と詠んだ道真にちなんだ梅を、家紋と定めたのです。以降、歴代藩主は道真を崇敬し、道真関連の文物の収集に励みます。

五代藩主綱紀に仕えていた書物役・山本基庸は、その収集に奔走した一人です。現在の鎌倉市にある荏柄天神社は、鎌倉における天神信仰の拠点として発展していましたが、その縁起を描いた『荏柄天神縁起絵巻』（昨年九月十日より開催の「加賀藩の美術工芸」にて展示済）を買い求めたのも、基庸でした。かつて出開帳に出た際、綱紀はそれを借用・模写していたのです。

今回の特集では、こうした道真関連の作品の中から、「天神画像」を展示します。大宰府に送られる際、縄の上に座らされ、怒りの形相を見せる「縄敷天神画像」。道真がやがて唐へ渡り法衣を受けたとする「渡唐天神画像」など、さまざまな天神様の姿をご紹介します。

胎輪天神像

寺田栄次郎展  
— 10cm四方の小宇宙 —

2月10日(金)～3月24日(土)会期中無休

油絵のキャンバスには各サイズにF、P、Mの三種の規格があることはよく知られています。Figureは人物、Paysageは風景、Marineは海景と長辺は同じですが、短辺が順に短くなっているのです。これ以外にはS、Square（正方形）という規格があります。

今回の寺田栄次郎展の作品は七十六点すべてがSです。人の視野は横に広く縦は狭いので、風景はPとMの長辺を横にして描くのが普通ですが、寺田氏はいろいろ描いてみてこの形に落ち着いたと語ります。ずらっと一列に並んだ10cm角の作品を見ていきますと、巨大な風景の一部を四角の枠で切り取ったかの感を受けます。

写真は寺田氏の制作場の一隅で、この机の上でこれらの作品が描かれていきました。はじめは写實的に描いていた世界が、徐々に幻想を交え、シニールな世界に変貌していきます。そして、見る者に興行きの深い巨大な世界をあちこちと逍遙

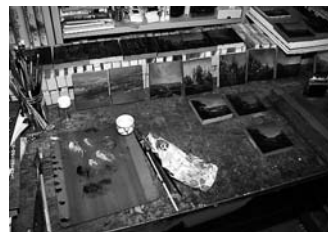
しているのではとの幻想を抱かせます。自己を微細にして巨大な空間に転送し、一点一点の作品がうかがわれる深遠の世界を堪能いただければ幸いです。

**寺田栄次郎氏略歴**

昭和二十五年愛知県名古屋生まれ。四十九年愛知県立芸術大学大学院（油画）修了。東京芸術大学絵画組成研究生。五十二年国画会展初入選。以後毎回入選。五十三年国画会展 国画賞受賞。金沢美術工芸大学（油絵）非常勤講師（六十年同大研究所講師、六十二年助教授、平成八年教授）。平成三年国画会会員。十七年国画会退会。以後無所属、個展を中心に作品を発表。

現在・金沢美術工芸大学芸術学教授、文化財保存修復学会会員。

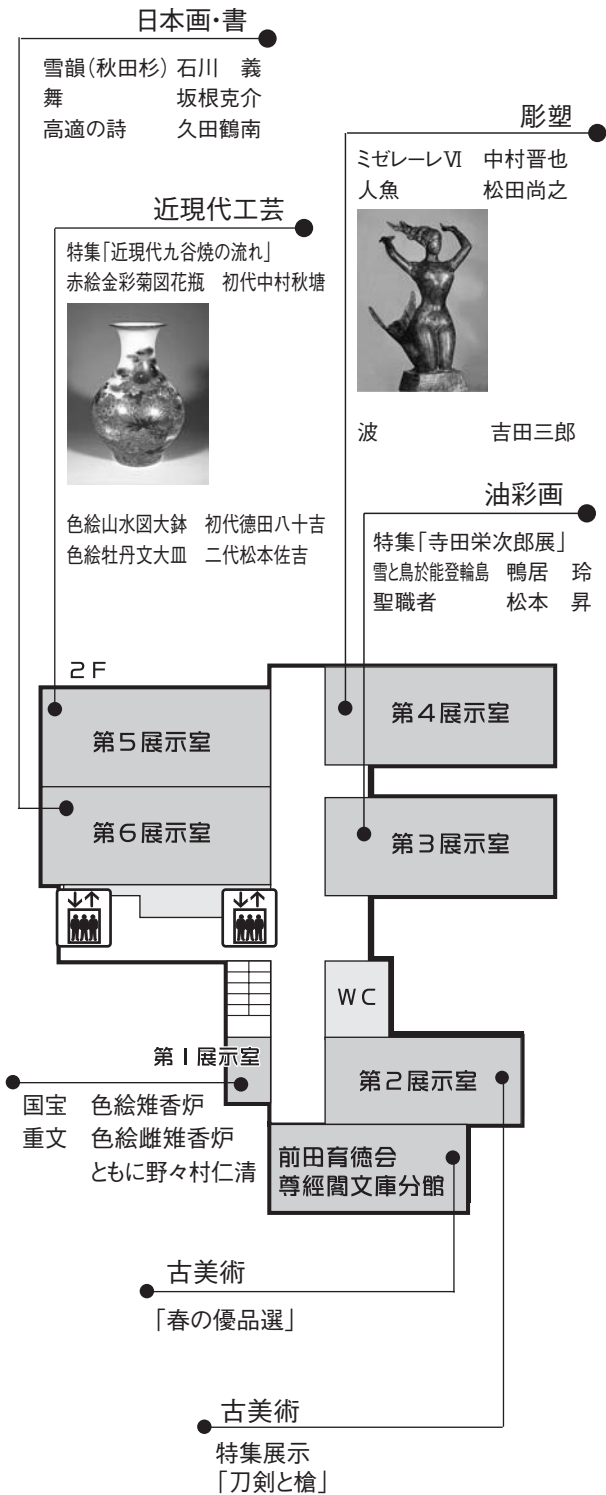
専門分野 絵画組成（絵画技法・材料研究）  
著書『絵画下地の研究』、『テンペラ技法の研究』、『昔の顔料の研究』、『金箔接着剤の研究』等



寺田栄次郎氏アトリエの一隅

# 主な展示作品

2月10日(金)～3月24日(土)会期中無休



# 刀剣と槍

2月10日(金)～3月24日(土)会期中無休

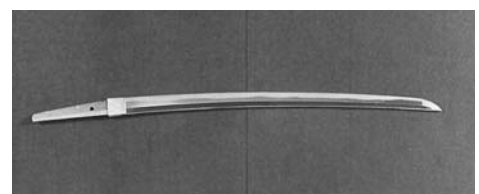
今回の展示は、加賀の地で作られた刀剣である「加州刀」の中から、江戸時代に作られた新刀を中心に構成されています。加州新刀の刀工は、在来派と移入派に大別されます。今回は、在来派として藤嶋友重流の、友重、信友、清光の刀、脇指、薙刀、槍を。そして移入派は、美濃から移住したとされる辻村兼若の刀、脇指を展示します。

藤嶋友重は、十四世紀に現在の福井市藤嶋から、同じく現在の金沢市泉に移住したと考えられている刀工で、以後数代にわたり活動しました。信友、清光はその流れをくむ刀工で、特に清光の名は新撰組の沖田総司が用いた刀として有名になりました。兼若は、江戸時代初めの慶長年間に金沢に移住したと考えられている刀工で、その作行きは藩

政時代を通して高く評価され、「加賀正宗」とも呼ばれました。

今回は、展示総点数十九点のうち十四点が国から譲与を受け、当館で研磨した「赤羽刀」です。特に兼若六点はこれまで同時に展示されたことがなく、友重、清光らとあわせて加州新刀の最も充実した時期の作品の一端を紹介したいと思います。

さらに今回は成巽閣ご所蔵の、瑞龍寺奉納刀を特別に展示します。これは加賀藩三代藩主前田利常が、息子で四代藩主光高の急逝を受けて、孫の五代藩主綱紀の武運長久を祈るために、領内の刀工二十二人に命じて作刀させ、瑞龍寺に奉納したもののうち、現存する貴重な一口です。



脇指 銘賀州住兼若 延宝七年八月吉日  
辻村 兼若 1679年

# 3月の企画展示室

## 第8・9展示室

### '11 玄土社書展

3月16日(金)～18日(日)会期中無休

- ◇連絡先 能美市寺井町よ二十五番地  
石川県九谷会館  
TEL 〇七六一―五七―〇一二五
- ◇入場無料  
高校生以下無料
- ◇連絡先 金沢市本多町一―七―十五 玄土社  
TEL 〇七六一―二六三―〇二二二
- 「表立雲ト―クタイム」  
テーマ 古典書の臨摸三十年  
日時 三月十八日(日)午後二時三十分
- 玄土社の一年間の活動を集約する「11玄土社書展は、常に「今」を表現する抽象作品五十点、古典臨摹作品二十五点を展示いたします。  
書壇の時流とは逆に玄土社が中央展を退会したのは三十数年前のこと。以来、少数派に甘んじて、作品発表は徹底的に最前衛を貫き、古典は厳密な模写に取組み、保守と前衛の両極を楽しんで歩みつづけています。  
昨年には書の故郷中国北京精華大学で前衛書展を開催。玄土社臨摸三十年記念東京展には、百三十三点の作品が展示されました。  
◇会期中の行事

## 第7展示室

### 第35回 伝統九谷焼工芸展

3月9日(金)～22日(木)会期中無休

- 昭和五十一年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で今年三十五回を迎えます。今回は石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会五十周年記念事業として第2展示室で古九谷、第5展示室で近現代九谷焼の流れも同時に見ることが出来ます。
- ◇入場料 一般五〇〇円(友の会料金 二八〇円)  
高校生以下無料
- ※伝統九谷焼工芸展と第2・5展示室を含むコレクション展をご覧になれます。
- ◇連絡先 能美市寺井町よ二十五番地  
石川県九谷会館  
TEL 〇七六一―五七―〇一二五

## 図書コーナーだより

昨年の暮、創立五〇周年を記念する石川県陶芸協会展が、当館の企画展示室で開催されました。いうまでもなく石川県は、九谷焼、大樋焼など、やきものの盛んな地域として全国に知られています。今回、コレクション展示室(第5)では、同協会の創立五〇周年に合わせて、当館の所蔵品を中心に近現代九谷焼の流れをご覧いただけます。それに合わせ、一階の情報・図書コーナーでは、当館の蔵書の中から、過去の展覧会図録を中心に、左記の関連書籍を開架していますので、お気軽に閲覧いただければ幸いです。

- 〇近代九谷の名工 初代中村秋塘展  
昭和五十五年/加賀市美術館
- 〇寺井の色絵九谷作品図録  
昭和五十六年/寺井愛陶会
- 〇喜寿記念 浅蔵五十吉展  
平成二年/高島屋
- 〇色絵の清華―歴代名工の活躍  
―明治・大正・昭和  
平成十二年/寺井町九谷焼資料館
- 〇九谷庄三展―作品に見る裏銘―  
平成十三年/寺井町九谷焼資料館
- 〇大樋長左衛門窯の陶芸  
―加賀百万石の茶陶  
平成十三年/淡交社
- 〇釉裏金彩 吉田美統作陶展  
平成十三年/日本橋三越
- 〇現代九谷の黎明  
北出塔次郎と青泉窯三代  
平成十四年/石川県九谷焼美術館
- 〇「明治九谷の旗手 吟秋・二毫兄弟」展  
平成十五年/石川県九谷焼美術館
- 〇北出不二雄作陶展  
平成十五年/高島屋
- 〇歿後五十年 初代徳田八十吉  
古九谷・吉田屋の再現にかけた生涯  
平成十八年/小松市立博物館
- 〇追悼 人間国宝 徳田八十吉展  
平成二十三年/朝日新聞社

(※発行年順 発行者の名称は当時のままで記しました)

### お知らせ

BS日テレ「ぶらぶら美術館博物館」に石川県立美術館が登場します。  
放映日時/平成23年3月23日(金) 夜7時



# 企画展 topics

## 幻のコレクション

# 中国陶磁名品展 —イセコレクションの至宝—

平成24年4月22日(日)~5月13日(日) 会期中無休

本展は、美術品収集家としても知られるイセ食品グループ会長、伊勢彦信氏のコレクションから、中国の古代、唐、宋、元、明、清の時代の陶磁器の名品を選び、重要文化財二点を含む約百点を一堂に公開するものです。伊勢氏の中国陶磁コレクションは質の高さで国内外から高く評価されていますが、これまでその全貌が公開されたことはなく、今回は一部の研究者のみが知っていた「幻のコレクション」が一挙公開されることで、全国的に大きな話題を呼ぶものと思います。

中国の陶磁器は、本県の古九谷にも深く影響を与えています。今回の展覧会は、工芸王国石川の一つのルーツをたどるものとしても意義があり、伝統工芸に従事する人々や愛好者にとっても貴重な研鑽や学習の機会となるのではないのでしょうか。さらに、中国陶磁は茶道や華道などの生活文化でも重要な意味を持つことから、単に古陶磁や美術愛好者のみならず、是非とも幅広い方々に本展をご鑑賞いただきたいと思えます。

### 主な展示作品

- 重文 飛青磁柑子口花生 元時代 龍泉窯
- 重文 五彩金欄手花鳥文瓢形瓶 明時代 景德鎮窯
- 白地黒搔落し牡丹唐草文瓶 宋時代 磁州窯
- 法花蓮池水禽文瓶 明時代 景德鎮窯



重文 五彩金欄手花鳥文瓢形瓶  
明時代 景德鎮窯

## ミュージアムレポート きじっ子茶会

抹茶碗を制作する小学生親子対象の4回連続講座「きじっ子クラブ」。最終回の1月22日、出来上がった抹茶碗での茶会の日を迎えました。今回の講座の目玉は自分の制作した茶碗で抹茶の日を迎えること。茶室では、自作のお茶碗を前に完成した喜びやその出来映えなど、親子で、また、並んで座る他の参加者の方とも語り合う姿があちこちで見られ、一緒に制作してきた方々と共に完成した喜びを分かちあう和やかな様子が印象的でした。また、茶会後の企画展「古美術優品展」の鑑賞では、講座終了後にも再度展示室に足を運ぶ参加者が何組もいるなど、参加者の方々の関心は非常に高く、制作と結びついた展示作品の鑑賞会の魅力を実感した講座となりました。



## アンケート結果より

企画展示室、コレクション展示室それぞれで大勢の方からご意見いただきました。来館者を見ると、男女ほぼ同じ割合でしたが、六〇歳以上の方が半数を占めており、やや年代が高い傾向がみられました。しかし休日には県外からの三十歳以下の割合が高くなり、それと関連してか、自家用車での来館が二割ほど増加しました。

駐車場に関する意見がいくつか寄せられており、係員を増員したほか、職員の出勤回数を増やし、できるだけ不便の無いように努力しました。また、展示作品の文字表記の大きさや解説を希望する意見があり、企画展・コレクション展ともにできるだけ解説をつけ、カードも読みやすくするなど、皆様からの声を生かした取り組みを行っています。今後とも、ご来館の節には、ぜひともご意見をお寄せ下さい。

# 平成23年度の 展覧会を振り返って

当館では、一階の企画展示室や二階のコレクション展示室で多くの展覧会が開催されました。それらの中から当館主催の企画展を振り返ってみたいと思います。

**春の「セルフ・ポートレイト展 ―キャンパスの中の巨匠たち―」**  
は、自画像と代表的な作品に肖像写真を添えて展示しました。日動美術財団の協力のもと、明治から現代まで六十五作家、一三二点の構成となり、一部の作家は作品と創作の秘密を窺わせるパレットもあわせて展示しました。明治から現代にいたる作家の、これだけまとまった数の自画像がなることはなく、毎週日曜日午前のギャラリートークで担当学芸員が作家のエピソード等を語ったこともあって、参加された方々からは作家・作品に親しみが深まったと好評でした。また画家の内面を描いた自画像は、より深い作家像を伺い知ることができたとの感想をいただきました。

**秋の「地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展」**は、地域で育まれた文化財や美術工芸作品を収集対象として活動している公立美術館・博物館の収蔵作品の中から、当館を含め、愛知県以西十四館の三十三件の伝統的工芸品、工芸作品を紹介したものです。なお、本展は会期中に金沢で開催された第五十九回全国博物館大会の協賛展として開催されました。

鑑賞者からは、西日本だけに限定された展示とはいえ、素材を生かし技術を駆使して現代から未来へとつながって行く、それぞれの地域で育った伝統工芸品を改めて見つめることができ、その



セルフ・ポートレイト展  
キャンパスの中の巨匠たち



地域文化が育んだ  
美術館・博物館の名品展



古美術優品展  
―山川コレクションを中心とした  
茶の湯の美―

すばらしさに魅了されたとの声が聞かれました。

東日本震災等の事情により、関東・東北地方の館を紹介できず、展示スペースの関係から、各品目十点ぐらしか紹介できませんでした。全国には二百を超える伝統的工芸品（国指定）があり、各地の美術館・博物館ではそれらを紹介しています。本展をご覧になられた皆様が、これを機会に全国の館を訪れるきっかけになれば幸いです。

**新春「古美術優品展 ―山川コレクションを中心とした茶の湯の美―」**は、当館の顔ともいえる国宝「色絵雉香炉」をはじめとする、金沢の素封家山川家が三代にわたって収集したコレクションを中心としたもので、これらは当館の古美術の核となっている名品です。三代庄太郎の没後五十年の節目を迎えたことを記念して、近代の数奇者山川家の茶道美術を中心に当館が所蔵する古美術の優品を公開し、加賀の茶道を中心とした文化をお楽しみいただきました。重要文化財四点、県指定文化財九点を含む約一三〇点の展示でした。また、前田育徳会尊經閣文庫分館でも茶道具と名物裂が展示され、あらためてそれらを認識していただけたものと思います。来館者からは、数多くの優品を一堂に鑑賞することができ、とても一度で味わいつくせないとの声や、土曜講座・ギャラリートークと、当館館長の「山川庄太郎翁とコレクション」の講演会等からあらためてコレクションのすばらしさを堪能できたとの声が数多く寄せられました。

## 移動美術展 in 中能登

本年度の移動美術展は、一月二十二日から二十九日まで、中能登町で開催されました。会場は、ラビア鹿島で、平成七・十七年に引き続き三回目となります。展示作品は、県立美術館所蔵の絵画（日本画、油彩画、アクリル画、素描）二十九点、浮世絵版画十六点、彫塑七点の計五十二点を展示しました。従来の展示構成では、基本的にジャンル別に陳列していましたが、今回は特に絵画・彫塑の中でジャンルを問わず、テーマを設けて配列しました。まず季節を感じさせるもの、「季節の情景（一）春・夏」「季節の情景（二）秋・冬」「西洋の情景」と分け、それから「人びとの姿」「生きものたち」、「動かぬもの」（静物画）、「抽象的な表現」と並べ、最後に浮世絵を「風景」「花鳥」「人物」「その他」とまとめました。さらに、順路を矢印で表記しテーマパネルの上に付け、見て歩く順序が混乱しないようにしました。

例年の如く今回も、地元多くの小中学生が団体鑑賞で訪れ、保育園児のグループも興味深く見入っていました。あまり見る機会の少ない美術作品を鑑賞することで、日常経験しないような発見や感動があったことと思われれます。また一般の方々も、寒い時期にもかかわらず多くの人に足を運んでいただき、三千二百人近くの過去最高の入場者数を記録することができました。

これもひとえに、地元の関係の方々のご協力の賜物と、ここに改めてお礼申し上げます次第です。



## 三月の行事予定

12日(月)	■上映会 ■上映会	午後1時30分 午後2時30分	美術館ホール	入場無料
	平成二十二年 工芸技術記録映画 「釉裏金彩―吉田美統のわざ―」(32分) 記念講演会 「近現代の日本の工芸―嶋崎 丞館長 定員／200名(先着順、事前申込不要) 主催／公益社団法人 日本工芸会石川支部・石川県立美術館			
4日(日)	■土曜講座 3日(土)	午後1時30分	美術館講義室	聴講無料
	東京美術学校と石川(2) 西田孝司 ■ビデオ鑑賞会 午後1時30分	美術館ホール	入場無料	
	石川の匠たち 即是色 人間国宝 三代徳田八十吉(24分) 石川の匠たち 炎と土と色 どうして蘇らすか 文化勲章受章者・浅蔵五十吉(20分) 石川の匠たち 土火への祈り 大樋焼十代大樋長左衛門(24分)			

## 次回の展覧会

前田育徳会 尊経閣文庫分館	前田家の調度 ―唐物を中心に―	3月29日(木) ～ 4月17日(火)
第2展示室	唐物への憧れ	3月31日(土) ～ 4月17日(火)
第3～9展示室	第六十八回 現代美術展 日本画・工芸・書	





身の部分は、立ち上がりから口縁部に向けて、蓋は中心から周縁部に向けて、金粉を蒔いた上に透漆を塗り重ね、それぞれ暗から明へと微妙なグラデーシオンがほどこされています。身、蓋の合口附近には、弧を描く何本かの線条を刻み、シンプルな表現の中にも、心地よいアクセントとなっています。

また、ボディは乾漆で成形されていますが、漆に輪島の地の粉を混ぜて麻布を塗り固め堅牢性をもたせるとともに、自由に器形が作れ軽い乾漆の特質を生かし、円に近い微妙にゆるやかな五角形を形作っています。まるで、馥郁たる梅の花の姿を連想させるかのようなこともあり、作者の温かな人柄が伝わってくるようです。

本作は、加飾を極力抑え、塗りの技を全面に出して、その奥深い神秘的な味わいをもし出す作者の持ち味が、いかなく発揮されている作品といえるでしょう。

作者は、輪島市に生まれました。父の政、蒔絵作家の勝田静璋に師事。昭和四十年第十二回日本伝統工芸展初入選、以後連続出品し、五十一年日本工芸会会長賞、五十二年朝日新聞社賞、六十二年保持者選賞を受賞。その間、平成七年には、髹漆で重要無形文化財保持者に認定されています。乾漆技法による柔らかな器形と、塗立仕上げ(花塗)による漆の光沢を生かし、伝統的技法を駆使しながら、近代的な造形感覚を見せる優品を制作し続けました。(第5展示室にてご覧いただけます)

### ご利用案内

コレクション展観覧料  
 一般 350円 (280円)  
 大学生 280円 (220円)  
 高校生以下 無料  
 ※ ( ) 内は団体料金  
 3月の開館時間  
 午前9:30～午後6:00  
 カフェ営業時間  
 午前10:00～午後7:00

3月の休館日は  
 25日(日)～28日(水)

### 友の会入会受付開始

三月一日(木)より、来年度友の会新会員の募集、更新手続きが始まりました。お申し込みは郵便振替をご利用いただくか、直接県立美術館でお手続きください。現在、会員の方も更新の手続きをお願いします。

■有効期間 平成24年4月1日～平成25年3月末日

■年会費 2,000円

#### 【主な特典】

- ・コレクション展示室の無料観覧
- ・企画展の招待券進呈
- ・入館料の割引
- ・展示の詳細やその他の催し物のご案内を記載した、美術館だより(本誌)を毎月送付



新しい会員証の図版は、江戸時代末期に古九谷窯跡で開かれた、吉田屋窯の名品「色絵象人物図角皿」です。昨年と趣を変えて、異国情緒漂う作品を用いました。

やさしさ品質

お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン

地階 エムザ 食品館

広告

“もっとお客様へ、もっと地域に”

MEITETSU  
**MIZA**  
 めいてつ・エムザ  
 金沢・石川がは TEL代表(076)260-1111  
 http://www.meitetsumza.com/

石川県立美術館だより  
 第341号(毎月発行)  
 2012年3月1日発行  
 〒920-0963  
 金沢市出羽町2番1号  
 Tel:076(231)7580  
 Fax:076(224)9550  
 URL http://www.ishikawa.jp/